

R6事業者の省エネ事例⑦

給湯器の運用見直し



給湯器の設定温度や使用期間を最適化して省エネ！

ポイント

- ✓ 衛生管理上可能な範囲※で設定温度を下げましょう
- ✓ 手洗い用の給湯器は、夏場などは電源OFFが効果的です！

省エネ効果

給湯使用量20kg/日/台・給湯温度65℃の給湯器の稼働日数を短縮した場合の試算

コスト削減効果 : 約3.2万円/年
温室効果ガス削減効果 : 約0.5t-CO₂/年

設定温度



使用期間

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON
↓ 見直し											
ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON

専門家からのアドバイス



給湯器からかなりの放熱があります。使用期間や設定温度を検討し、不要な加熱は抑えましょう。



※ 厚生労働省の指針*では、レジオネラ症を予防するために、貯湯式の給湯設備や循環式の中央式給湯設備の場合、貯湯槽内の湯温が60℃以上、末端の給湯栓でも55℃以上となるよう管理することが求められています。（*出典 厚生労働省「レジオネラ症を予防するために必要な措置に関する技術上の指針」）